

第 47 回日本放射線技術学会秋季学術大会 印象記

横塚 記代
Yokotsuka Noriyo

1. はじめに

2019年10月17～19日に大阪府のグランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）にて、福西康修（彩都友誼会病院）大会長のもと、第47回日本放射線技術学会秋季学術大会が「Let's lead smart medical care through our imagination and creativity—未来へ—」というテーマで開催されました。会場は中之島という河川に囲まれた正に島の一角にあり、2018年の豪雨災害で被害を受けたかもしれない立地ではありましたが、そのような様子を全く感じない、むしろ活力を感じる場所でありました。今大会で元気な大阪を見ることができ、そして大阪の皆様の明るく、強い姿に感銘を受けました。しかし、大阪が復興したのも束の間、本学会の直前には大型台風によって広い地域が甚大な被害を受けました。震災にあわれた皆様には謹んで心よりお見舞い申し上げます。

会場となったグランキューブ大阪は、近代的でもあり、歴史的な文化も感じる天井画もある素敵な建物でありました（写真1）。この絵画はメインホー



写真1 特別会議場の天井画（上：前方，下：後方）

ルの特別会議場の東西南北にあり、大阪出身の女性日本画家である生田花朝女（1889～1978年）の作品です。この画家は、女性として日本画家の未来を切り開いた先駆者であり、同じ女性として誇らしく、尊敬の念を抱きました。また、今回のテーマである「未来へ」と重なる部分も感じ、私自身の未来を見つめなおす機会を得た素敵な空間であり、充実した時間でした。

2. 今大会の特徴

今回はさすが大阪！と感じさせるユニークで興味深い講演が盛りだくさんの大会であったのが印象的です。一部ですが、大阪大学大学院の大竹文雄氏による「医療現場の行動経済学」、安藤忠雄建築研究所の建築家である安藤忠雄氏による「人生100年—医学に期待する—」、株式会社日本旅行の平田進也氏による「『全てはお客様の笑顔のために』そこまでやるのか、カリスマ添乗員本音で語る！」等のバラエティに富んだ講演は今までにない視点を得ることができました。特に、建築家である安藤忠雄氏は、数々の建築物の設計やデザインだけではなく、東京オリンピック招致、東日本大震災で親を亡くした子どもたちへの学びの支援、大阪市中之島に自らの設計による図書館「こども本の森 中之島」を建設する等の活動も行っており、未来に目を向け、そして実行することの大切さを真に感じました。

3. 今大会に参加して

筆者は、主に核医学分野の口述発表や専門部会講座に参加しました。発表セッションでは、人工知能や半導体カメラに関する演題等の新しい技術や機器の研究発表が多くなされていました。筆者は、東北大学医学部附属病院の小田桐逸人氏による専門部会講座「核医学機器工学」の座長を担当いたしました。小田桐氏は講演で、PET 機器と周辺機器の精度管理と点検項目に関する基礎内容を1つ1つ丁寧に説明して下さいました。会場からの質問が多く、参加者の関心が高かったことが伺えました。精度の良い核医学検査を行うため、再考や確認ができたのではないかと感じました。また、筆者は2019 - 2020 学術研究班の班長として「放射性医薬品の適正管理に関する調査研究」を行っております。今大会の間幕スライドやチラシによりアンケート調査へのご協力をお願いしたところ、多くの方に興味を持っていただきました。この記事を読んで下さっているご施設の皆様にもご協力いただけますと幸いです。

核医学部会委員として企画・運営した第79回核医学部会シンポジウムでは、「核医学領域の被ばくについて」をメインテーマに計6つの講演とディスカッションが行われました。最初の3演題は「核医学被ばくの適正管理」のシンポジウムであり、核医学領域における被曝管理の位置付けや動向、DRL2020に向けた準備や対応策、水晶体被ばく測定の方法や必要性についてのお話を聞き、今後に向けた準備の礎になりました。続く3演題は「核医学におけるCT撮影線量と定量値」のシンポジウムであり、SPECT/CTとPET/CTにおける被ばく線量、またCT撮影における線量測定法及び測定精度、SPECTやPETの画質と定量性に与える影響等、普段注力していなかった領域の知見が広がりました。

4. 大会での交流

情報交換会が10月18日18:30から大会会場近くのリーガロイヤルホテルにて盛大に行われました。琵琶演奏や吉本の芸人さんが来る等の目玉企画もあるとのことで、楽しみにしてまいりました。食



写真2 情報交換会でのマグロ解体

いだおれ衣装の実行委員の皆様のおかげでオープニングから始まり、終始笑いの絶えない会でした。何より嬉しかったのが、焼きたてのたこ焼きに揚げたての串カツ、そしてさばきたての近大マグロ(写真2)と大阪ならではの食べ物です。多くの方々と楽しい談笑に花を添える素敵なおもてなしだと感じました。

翌日の土曜日の朝は、事前に参加者を募っていた朝ラン企画に参加しました。核医学部会委員のメンバーと共に、昨年の秋季学術大会から学会会期中に朝にランニングをする朝ラン企画をしています。今回は、6:30に大阪城公園入り口に集合し、公園内をみんなで1周走る企画でした。第76回日本放射線技術学会総合学術大会でも開催しますので、興味のある方は是非ともお声がけ下さい。大会内外で多くの方と楽しく交流できることが学会の楽しみではありますが、普段よりも多くの交流がもてたのは明るい大阪の力なのかもしれません。

5. さいごに

最後に今大会を企画・運営して下さった福西康修 大会長及び南部秀和 実行委員長をはじめ、実行委員の皆様のご尽力とおもてなしの心に感謝申し上げます。そして、筆者にこのような機会を与えて下さいました日本アイソトープ協会 Isotope News 編集委員会に心より御礼申し上げます。

(帝京大学医療技術学部 診療放射線学科)